

# 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目(例えば、下記項目のⅡやⅢ等)から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したようになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

## 地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	<b>22</b>
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	<b>10</b>
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<b>17</b>
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<b>38</b>
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	<b>13</b>
合計	<b>100</b>

## ○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

## ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## ○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ながさか
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	宮城県 白石市
記入者名 (管理者)	佐藤 恵子
記入日	平成 19年 10月 20日

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念に掲げていると通り、あたたかな雰囲気のもと穏やかでゆったりとした楽しみのある生活を住み慣れた地域社会の中で実現出来る様に理念づくりをし取り組んでいる。	カンファレンスや職員会議などで運営理念に基づいた各利用者の目標などを話し合っている。地域との関わりをより密に取れるような運営に努めている。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	カンファレンスや職員会議などで理念に基づき、各利用者の目標などを話し合っている。職員とパート職員間で格差がないように確認している。	事業計画は、毎月担当職員を設け、職員会議などで目標や取り組むべき内容を検討している。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	ご家族には、入所時や面会時に地域の中で暮らし続ける大切さを念頭に置いたかわりをさせていただくことを説明させていただいている。地域へは、地元子ども会や自治会への集まりに参加し、グループホームとはどうゆう所か理解してもらえよう説明している。	ご家族には、入所時、実態調査時、地域の方や他事業所からの見学があった場合は、パンフレットなどを使い、住み慣れた地域の中でくらすという運営方針について理解していただけるように勤めている。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	管理者及び職員は、ゴミだしや散歩時、回覧板をまわす時など積極的に地域の方々に声掛けするよう心がけている。	顔なじみの方には、気軽に立ち寄って頂いたり、おかずのおすそ分けを頂いたり関係は構築されつつある。今後も開かれたホームを目指し、声掛けなどしていきたい。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、ゴミ拾いや草刈りなどに参加している。地域からも行事のお誘いが来たりすることもある。	地域の一員としての役割を果たし協力体制を図るように勤めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域の方々への説明する際、何か介護に困ったことがあれば相談に乗りますと声掛けしている。しかし、まだ相談などはない。地域のお年寄りを招待して何か行おうかという意見もでており、現在検討中である。	○	今後、地域の一員をして貢献できる事はないか検討し、取り組んでいきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員ともに、自己評価、外部評価の意義は、理解している。今回の評価の内容を活かし、改善にむけ取り組んでいきたい。 個人の空間作りなどは、各担当を中心にその方にあった空間作りに努めている。	○	今回の評価を真摯に受け止め、より良いサービスを提供できる事業所となるように改善していきたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の開催準備はしているものの、管理者の異動などがあり、まだ実施に至っていない。地域への啓発は、子ども会や自治会の話し合いに参加し行うよう努力している。	○	早期に運営推進会議を実施できるようにしていきたい。会議では事業所実践内容を理解していただき、それに対し意見をいただき、今後の運営に活かしていきたい。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村担当へ、実習生の受入やご相談させていただき、助言や指導を頂いている。		事業所の実践の理解とアドバイスなどを頂けるよう、行政との関係を密にしていきたい。
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶために、それらの研修会があれば、積極的に職員を派遣している。職員会議で学んできた内容を報告するとともに、関係資料を全職員で回覧している。		権利擁護や成年後見制度について理解を深める機会は設けている。今後、それらの制度を必要とする利用者がいる場合は、速やかに対応できるようにしたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止関連法について学ぶ研修があれば、積極的に職員を派遣している。虐待、及び身体拘束による弊害を全職員が理解し、虐待や身体拘束のないケアを実践している。		認知症を対象とする虐待、少人数の密室性の危険性を管理者及び職員は認識し、定期的に考える機会をもうけ、職員全員で予防に向けて取り組んでいる。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、運営規定、入居契約書、重要事項説明書などを一文ずつ書面に沿って読み上げ、十分な説明をしながら理解、納得していただけるようにしている。	入居契約時に契約書などの書面に沿って説明を行ない、利用者、家族の不安や疑問に対し答える事で納得していただけるように勤めている。
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満、苦情の受付について、ホームの窓口、公的機関、第三者委員を電話番号を添えて重要事項説明書に明記し、入居者やご家族に口頭でも説明している。日々の生活の中でも、何か相談事や不満に思っていることはないか、会話の中に入れ聞き出すようにしている。	契約時に説明を行っている。また、事業所の玄関には苦情相談の窓口などを書いた書面を綴り、いつでも見られるようにしている。苦情があった場合は、ミーティングや職員会議で、管理者、職員間で改善に向けた検討を行っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月に1度発行する「ながさか通信」で報告している。金銭管理については、お小遣い帳のコピーを添付したりしている。また、面会時に健康状態やお小遣い帳の確認などしてもらっている。体調の急変時には、その都度ご家族へ電話にて報告し、病状の把握してをしていただけるようにしている。	家族の面会時や面会の少ない家族には電話やながさか通信にて職員より利用者の状態について個々に合わせて対応をしている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見や不満、苦情の受付について、ホームの窓口、公的機関、第三者委員を電話番号を添えて重要事項説明書に明記し、入居者やご家族に口頭でも説明している。また、家族の訪問時にも会話の中で一言添えている。	契約時に説明を行っている。また、事業所の玄関には苦情相談の窓口などを書いた書面を綴り、いつでも見られるようにしている。苦情があった場合は、ミーティングや職員会議で、管理者、職員間で改善に向けた検討を行っている。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員会議や日々の関わりの中で職員の意見を聞く機会を設け、職員間の意識が統一するよう話し合っている。	今後も、職員の意見を聞く機会を設けていきたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	必要な時間に職員を確保する為、話し合いや勤務の調整をし、状況の変化や要望にこたえるように対応している。	より利用者や家族の希望に応える事が出来るように、勤務の調整など、柔軟な職員の体制を検討している。
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職の場合は、心理的影響を最小限に抑えるように、異動後の利用者に対するフォローについて話し合い、配慮している。	異動や離職の場合は、心理的影響を最小限に抑えるように、異動後の利用者に対するフォローについて話し合い、配慮している。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各種研修(内外を問わず)に機会を設け、職員を派遣している。研修に参加した職員は、職員会議などで他の職員へ報告し、皆でトレーニングできるようにしている。また、日頃疑問に思うことなどは、職員会議で話し合ったり、管理者よりアドバイスしたりしている。	今後も各種研修など職員の派遣をし、育成を行ない、よりよいサービスの質の向上を目標としていきたい。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部への研修などに参加させ、他事業所との職員との交流の機会を設け、ネットワークづくりの機会にしている。	白石市の認知症家族の会の集いやみやぎ共生ネットスタッフ合同研修会の参加で近隣事業所へ連絡し情報交換を行っている。今後も、さらに職員の参加を促し、職員の育成、ネットワーク作りになればと思う。
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は、個別に職員の意見や訴えを聞き、アドバイスやフォローを行っている。改善に向け、話し合っている。	管理者は、個別に職員の意見や訴えを聞き、アドバイスやフォローを行っている。改善に向け、話し合っている。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	人事考課を実施し、職員の仕事内容を評価する事で、各自が目標を再確認できるように働きかけている。	今後、個別の目標管理シートなどを活用し、個々の目標を明確にし各自の意欲向上につなげたい。
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用者ひとりひとりの生活歴、性格、好みを十分に把握するように努め、認知症の重い方でも出来る限り意向を支援できるように努めている。	利用者ひとりひとりの生活歴、性格、好みを十分に把握するように努め、認知症の重い方でも出来る限り意向を支援できるように努めている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	相談時より、聴く姿勢を大切にし、ご家族が思っている事を色々な角度から見るように努めている。	相談時より、聴く姿勢を大切にし、ご家族が思っている事を色々な角度から見るように努めている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談内容から、各種サービスの検討や担当ケアマネジャー、各種関係機関への報告、相談を行ない、対応を行っている。		相談内容から、各種サービスの検討や担当ケアマネジャー、各種関係機関への報告、相談を行ない、対応を行っている。何を必要としているか、必要な情報提供をおこなっている。
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用前にご本人、ご家族と見学に来てもらったり、日中一時お茶のみに来てもらい雰囲気を実際に味わってもらおう。また、一泊してもらうなどしている。お互いに納得された上で入居を勧めている。また、生活に慣れるまで、ご家族と一緒に泊まったり、なじみの家具を持参してもらったりと環境をなるべく変えない工夫をしている。		生活に慣れるまで、ご家族と十分に相談し、出来る限り利用者の不安が少なくなるようにしている。ご家族の協力もお願いしている。
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	生活の知恵などを利用者から教わり、生活をともにしている。		職員は、出勤時は、「ただいま。」、退勤時は、「行ってきます。」と言い、生活をともにしている家族という視点で関わりを持っている。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者とともに支えることを念頭に置き、家族の意見を聞いたり、話し合う機会を設け、日々の関わりに生かせるようにしている。		家族との信頼関係を築き、ともに支えられるように関係性を作っていききたい。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	個別に判断し、必要に応じて介入し、よい関係が築けるように支援している。		利用者、家族の双方の意向を理解できるように努め、お互いにより良い関係を築けるように支援している。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの場所、人などを個別に把握し、行きたいときは職員がいっしょに行ったりしている。		なじみの床屋、店、近所の商店などに外出し、関係が継続できるように支援している。
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	日々の生活の中から、関係性を把握し、さりげなく介入するなど利用者同士の関係性が円滑に送れるように支援している。		利用者の気持ち(希望や不安、不満など)を把握するように努めている。ストレスを感じているような場合は、職員間で話し合い、軽減できるようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	契約終了後は、利用者や家族が希望される場合は、随時相談を受ける。		契約終了後は、利用者や家族が希望される場合は、随時相談を受ける。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
<b>1. 一人ひとりの把握</b>				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個々の生活歴から張り合いを感じていら仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中や家族からの情報の中から把握し、活かせる様に取り組んでいる。		個々の生活歴から張り合いを感じていら仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中や家族からの情報の中から把握し、活かせる様に取り組んでいる。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴から張り合いを感じていら仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中や家族からの情報の中から把握し、活かせる様に取り組んでいる。		個々の生活歴から張り合いを感じていら仕事や趣味、家事などを日頃の会話の中や家族からの情報の中から把握し、活かせる様に取り組んでいる。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	自立支援・自立助長の視点で、出来る事と出来ない事をアセスメントや日々の関わりの中で把握し、利用者の生活の質の向上に努めている。		個別に時間ごとに記録し、一人ひとりの一日の過ごし方を把握している。
<b>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	アセスメントにおいて抽出した課題やご本人の状態やご本人の状態、意向、ご家族の意向などを十分に考慮しながら、入居者の個別計画を作成している。		ご本人やご家族の意向に沿ったプランになるように、いろいろな職種の意見を取り入れて行くように努めている。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、期間に応じて見直しをかけるとともに、利用者の状態の変化に合わせ随時見直しをしている。		介護計画は、期間に応じて見直しをかけるとともに、利用者の状態の変化に合わせ随時見直しをしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員会議やカンファレンスで、日々の過ごし方の様子や気づいたことなどを情報を職員間で共有している。日々の様子などは、時間ごとに記録し手いる。		一人ひとりの変化に注目し、職員の気づきなどを職員会議で話し合ったり、記録に残したりしている。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に沿って、柔軟に対応している。		散歩や外出の希望がある場合は、関係施設への送迎と一緒に行ってもらったり、食材の購入に行ってもらったりしている。
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	自治会に加入し、ゴミ拾いや草刈りなどに参加している。地域からも行事のお誘いが来たりすることもある。本人の意向を尊重し、参加している。教育機関との連携については、高校生や専門学校生の体験学習や実習の受け入れを行っている。		利用者の意向を汲み取り、本人・家族が満足できるように、今後も地域資源の把握を行ない活用できるようにしたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	利用者・家族より希望のあった際は、他事業者と相談して、意向に沿ったサービスが利用できるように支援している。		利用者の意向を汲み取り、本人・家族が満足できるように、今後他サービス事業者との連携を取っていきたい。
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	情報交換や相談をしている。		必要に応じ、共同できるよう、日頃より情報交換など連絡を取っていききたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関4ヶ所(内科、精神科、歯科、総合病院)と契約を結んでいる。内科医は、嘱託医になっており、月に1度定期的に往診に来てもらっている。		協力医療機関に関わらず、希望する医療機関の通院付添などを行っている。ご家族・利用者の意向を踏まえながら、かかりつけ医との連携を密にとり、適切な医療を受けられるように支援していく。



項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	看護師や協力医療機関の精神科の医師に連絡を取り、症状に合った認知症の治療が行えるようにしている。受診に関しては、送迎及び付き添いをし、結果を電話や面会時にご家族に報告をするようにしている。		認知症の様々な症状について、医師に相談し適切な支援を提供できるようにしている。必要時には、受診をしている。
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	利用者をよく知る看護師に相談し、必要に応じて受診できる体制をとっている。協力医療機関と連携し、状況に合わせてスムーズに受診がおこなえる。		利用者に変化があった場合、すぐに看護師に相談し指示をもらい対応している。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院した場合、一日1回は必ず、職員が病室を訪問するようにしている。病院から付き添いが必要との指示があり、ご家族が付き添えない場合は、勤務形態を柔軟に変更し職員が付き添うようにしている。医師とご家族の話し合いにホームの職員も同席させてもらい、病状や退院の見通しの確認、退院に向けた話し合いをさせてもらっている。		入院中の状況を職員全員で把握できるように、訪問した際の記録をとり、全員で状況の把握に努めている。
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居契約時や症状が重度化した場合などにご家族との話し合いを設け、利用者やご家族の意向を確認している。終末期に至った利用者はまだいない。		重度化した場合、利用者、ご家族との話し合いの場を設け、主治医、看護師、職員など全員で方針を決め共有する。
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	今後の変化に備え、重度化や終末期へのケアについて、看護師と連携し迅速に対応できるようにしている。	○	今後の変化に備え、重度化や終末期へのケアについて、職員の研修など積極的に行っていきたい。
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	入居前の実態調査において、生活状況、生活歴、行動などを把握し環境の変化による負担が少なくなるように努めている。出来る限り自宅で過ごしていた環境に近づけるように、使い慣れた家具などを持ち込み、雰囲気を変えないようにご家族へ働きかけている。また、グループホームから別の場所へ移る際は、事前に実態調査に来ていただき、状況を書面で申し送りしている。何かあれば、随時相談を受けている。		入居してからも、環境がなるべく変わらないように、使い慣れた家具や食器などを持ち込んでもらっている。家族に協力していただき、数日一緒に宿泊してもらったり、頻繁に訪問してもらうなど移り住む事へのダメージを最小限に食い止めるためにしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない		職員会議やカンファレンスで個人の情報を取り扱ってよいか入居時に書面で本人、家族に許可をもらっている。各入居者のペースに合わせて、ゆったりとした態度、聞き取りやすぐ受け取りやすい言葉(方言など)、雰囲気ですすむようにしている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている		一人ひとりの希望を引き出していくため、言葉掛けの工夫や成功した例などを職員会議やカンファレンスで話し合い、職員の関わりの工夫にしている。
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している		利用者の生活歴や好みを考慮しながら、個別の特徴を把握し、一人ひとりに合わせたペースで関わっている。その都度、利用者の意思を確認しているようにしている。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている		利用者の希望に沿って今後も行っていく。身だしなみに関しては、気温や季節に合わせて、おしゃれをしたり、衣類の買い物へ出かける事もある。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている		利用者の能力に合わせ、食材の切り方、盛り付け、食器洗い、食器拭きなどのお手伝いをお願いしている。買い物は、2日に1度くらいの頻度で車で市内のスーパーへ買い物へ行っている。カートを押して、食材を選ぶ事もしていただいており、様々な会話の元になっている。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している		土用の丑の日や、お彼岸、お盆、お正月など季節に合わせて、食材を献立に入れている。利用者の楽しみの一つになっているようである。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排泄をケース記録に記録し把握している。利用者のさりげない仕草、態度などに配慮し越えがけ、誘導をおこなっている。		羞恥心に配慮し、同性介助する、周りに配慮して声掛けするなどの配慮をしている。職員は位置の関係で、異性介助になってしまった時は、タオルで隠すなどの配慮をしている。記録を通し、排泄のパターンの理解に努め、利用者の負担にならないようにしている。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	今までの生活リズムや個別の好みに合わせ、入浴の時間帯を設定し、入浴を楽しんでいただいている。		利用者のその時の気持ちに配慮し、無理強いをせず利用者のリズムで入浴して頂いている。入浴の拒否があった時は、時間を置いて再度勧めてみたりしている。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	入居前に、就寝時の様子などを聞き取り、安心して眠っていただけるように配慮している。夜間、眠れない利用者には、日中の過ごし方の見直しをおこなっている。どうしても眠れないときは、お話をしたり、添い寝するなど安心して休めるようなきっかけ作りをおこなっている。		睡眠の時間やパターンは、ケース記録に記入し把握に努めている。
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	生活歴で得意だった事などを把握し、日々の生活の中で活かせるように工夫している。食事の準備、食器洗い、洗濯、たみ、掃除、草むしりなど個別に役割が出来る。また、ドライブや食材購入のために外出することで気分転換にもなっているようである。		利用者ひとりひとりの生活歴、性格、好みを十分に把握するように努め、認知症の重い方でも出来る限り役割や楽しみを一緒に見つけるように今後も取り組んでいく。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族とも相談し、利用者が金銭を持っていただいている方もいる。管理が難しい方には、職員が管理をさせていただくなど、利用者や家族の希望に基づいた個々に応じた支援をしている。		金銭の管理に関しては、出来る限り本人にさせていただくが、自分で管理する事でストレスを感じる利用者もおり、個々に合わせてお預かりしている。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩をしたいという利用者や戸外での作業(草むしりなど)を役割としている利用者もあり、職員の見守りの元していただいている。		所在不明にならないように、楽しみを持って継続していただけるように支援していただいている。また、夢中になり、かえって疲れてしまう事もあるので時間をみて休憩していただくなど配慮している。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	面会や外出には、特に規制をせず、いきたいところへ行っていただいている。職員の付き添いが必要な場合は、柔軟に勤務を変更し対応している。		普段の会話から、行事などでも外出の計画を立て、利用者の気持ちに沿うようにしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームの居間に電話があり、好きな時に電話できるように環境は整えてあるが、あまり利用していない。希望時には、電話を回し利用者に代わるようにしている。手紙については、職員が介助しながら手紙のやり取りがスムーズに行なえるように対応している。		利用者への電話の取次ぎを行なったりしている。今後も規制を設けず、自由に利用していただきたい。
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	面会の時間は、特に規制を設けていない。気軽に立ち寄れるように声をかけたりしている。居間の掘りごたつや自室にてお茶を飲みながらお話してもらっている。		誰でも気軽に立ち寄れる環境をこれからも作っていききたい。
<b>(4)安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を行わないことを各職員に確認・実践している。多動な利用者には見守りや付き添うなどして対応している。		本人、家族などに対しても、身体拘束をしない方針を理解してもらっている。今後も日常のケアを振り返り、確認をしていく。
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけることも空間の拘束と捉え、日中玄関の鍵はかけていない。玄関からの外出時、さりげなく気づけるように風鈴をつける等の工夫をしている。夜間は、防犯のための意味を各職員に確認し施錠している。		今後も鍵をかけることはせず、自由な空間を提供していく。
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員も一緒に取り組むことで利用者の所在や様子を把握しながら、プライバシーの侵害にならないように注意している。夜間は、1時間に1回巡視し安全の確保に努めている。物音や声が聞こえたときは、その都度巡視し、安全の確保をしている。		今後もプライバシーに配慮し安全の確保に努めたい。
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	注意の必要な物は、なくすのではなく、安全に収納できるように配慮している。		準備室では、薬や洗剤などを管理し施錠している。台所では、包丁はケースにしまい決められた場所に職員の目が届くように管理している。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	消防署の応急救護の講習に職員を派遣し、職員会議などで周知するようにしている。行方不明者の捜索などはマニュアルを整備している。		事故報告書に記録し、カンファレンスや職員会議で再発防止にむけた話し合いを行なっている。今後も、講習への派遣をし、職員の意識の向上をしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の応急救護の講習に職員を派遣し、職員会議などで周知するようにしている。	消防署の応急救護の講習へ派遣していない職員もいるので、今後派遣し知識を深めてもらいたい。
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年に2回実施している。消火器の消化訓練なども行なっている。ホームの火災報知機は、地域にも向けてなるようになっており、地元の消防団に緊急時はすぐ応援をもらえるようお願いしている。	災害が起こらないように日頃から職員は気をつけるとともに、地域の方々との関わりを積極的にもって行きたい。
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	予測されるリスクについてはその都度家族へ相談している。	普段の生活状況や健康状態について家族に連絡をとり報告し、リスクを最小限に抑え、その方らしく生活出来るように相談、支援している。
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>			
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	日頃の様子をこまめに観察し、体調の変化があれば、看護師へ報告して指示をもらっている。必要に応じて、通院の予定を組み、通院している。しょくいんかんでは、申し送りや申し送りノートを活用し情報の共有を測っている。	今後も体調の変化を見逃さないように、日頃の様子をこまめに観察していきたい。体調の変化があれば、看護師へ報告して指示をもらい、必要に応じて、通院の予定を組み、通院していく。
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者ごとや前利用者の服薬のみのファイリングをつくり、職員がいつでも確認できるようにしている。誤って服薬しないように、薬ケースにそれぞれの薬が混ざらないようにしている。服薬する際は、職員間で相互に確認し事故防止に努めている。	ファイリングを確認するとともに、服薬変更時は確実に申し送りし職員全員が把握するように努めている。ふくやくごは、ケース記録の服薬欄にチェックし、間違わないように注意を払っている。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	一人ひとりの排便の有無を確認し、排便がない場合は、水分を多めにとってもらったり、食物繊維をとってもらったり、適度な運動をしてもらったりしている。それでも、排便が見られないときは、看護師に相談して下剤を使っている。	日々の活動の中で運動不足になってないか、職員全員で確認し、散歩に出かけたり体を動かす機会を設けるようにしていきたい。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	一人ひとりの能力に合わせ、出来るところは行なってもらうようにしている。自分で行なう事が難しい方に対しては、職員が介助し洗浄している。	一人ひとりの能力に合わせ、出来るところは行なってもらうようにしている。自分で行なう事が難しい方に対しては、職員が介助し洗浄している。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分のトータル、食事量を毎日記録を残している。記録を見直し、少ない場合は、代替りのもの(ゼリーなど)を摂取してもらっている。硬い食材は、やわらかくする(生野菜を温野菜へするなど)などの工夫をしてなるべく食べてもらえるように工夫している。		水分のトータル、食事量を毎日記録を残している。記録を見直し、少ない場合は、代替りのもの(ゼリーなど)を摂取してもらっている。硬い食材は、やわらかくする(生野菜を温野菜へするなど)などの工夫をしてなるべく食べてもらえるように工夫している。
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症についてのマニュアルを作成し職員に周知している。毎月仙南保健福祉事務所より送られてくる「せんなん感染症情報」を職員で閲覧している。		感染症に関する研修などに職員を積極的に派遣し、学ぶ機会を設けている。外からの帰宅後など、手洗いやうがいを励行している。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日、ふきん類は消毒する、まな板やタッパーは週に1回は消毒することとしている。まな板は、肉と野菜とで使い分けしている。新鮮で安全な食材を使用するため、買い置きはせず、こまめに食材購入をしている。		食中毒についての施設内研修で合ったときは、職員を派遣し学習してもらっている。研修に参加した職員は、職員会議などで他職員へ報告し知識の共有を計っている。
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>				
<b>(1)居心地のよい環境づくり</b>				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	以前の民家を改築した事もあり、地域の方がお茶のみに寄ってくれたり、おかずのおすそ分けを持ってきてくれたりという事がある。また、近所の子も達が敷地内で遊び、ホーム内にも遊びに来てくれることも見られる。		気軽に立ち寄ってもらえるように今後も、働きかけていきたい。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員間でカンファレンスなどで会話のトーンなど気をつけるように確認している。照明が直接当たらないように和紙で覆ったり、照明の角度を工夫するなどしている。カーテンで日差し調節などしている。		今後も心地よく過ごせるように工夫していく。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間には座りやすい掘りごたつ、広縁にはソファを設置し、利用者同士が集まって談笑するスペースがある。		独りでも、気のあった同士でも居心地よい場所になれるように環境づくりを行っていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者や家族には、出来るだけ使い慣れたなじみのある家具を持ち込んでもらえるように働きかけている。	○	家族の意向(倒してしまうのではないかと心配がある)で、あえてテレビなど設置しない部屋もある。雰囲気作りとして、個人の写真を飾ったりして個々の雰囲気作りをしている。不十分な部屋もあるため今後も積極的に空間作りをしていきたい。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	掃除の時間や失禁時など適宜に換気を行なっている。温度調節は、夏季は、扇風機、冬季は暖房をその時々にあわせて使用している。夜間は、巡視時に確認し調節している。		建物の構造上、空気が流れるような構造になっている。換気が必要な場合は、その都度適宜に行なっている。
<b>(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり</b>				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	浴室内、トイレに手すりを設置する、床面をバリアフリーにする改築を行なっている。廊下には、手すりを増設している。浴室の浴槽内には、滑り止めを設けている。物干し場には、物干し台も各種用意し使いやすいものを使っている。		それぞれの身体能力にあったものを使っていたりしている。
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	ホームの所々に昔のたんすや調度品など見慣れたものを置き、利用者にほっとできるような家庭的なあたたかな雰囲気を感ぜられるようにしている。利用者が、ホームの各所に置かれた昔の家具や置物を自分の居室の目印としている。		日時など混乱しないように目のつくホーム内の各所に時計やカレンダーを配置している。
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	庭や小さな畑があり、剪定や園芸作業、作物の収穫なども出来るようにしている。		庭木の剪定や草むしり、畑の管理など利用者の役割のひとつとなっており、職員も一緒に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

共生型グループホームとして、様々な年齢層の利用者がおり、日々の生活の中で役割（父や母、祖父母など）を持って生活している。また、民家改築の落ち着いた建物がより家庭的な生活に近いものがあると考えている。